

公開実用 昭和 59—

12727

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—127276

⑩ Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 05 K 5/02

識別記号

庁内整理番号  
7216-5F

⑬ 公開 昭和59年(1984)8月27日

審査請求 有

(全 頁)

⑭ 音響機器用レシーバーコードが埋設されたバ  
ンド

⑮ 考案者 キル・タイ・クウォン  
大韓民国ソウル・グローブ・  
ガリボン1ードン125-5

⑯ 実願 昭58-48001

⑰ 出願 昭58(1983)3月31日  
キル・タイ・クウォン  
大韓民国・ソウル・グローブ  
ガリボン1ードン125-5

優先権主張 ⑲ 1983年2月16日 ⑳ 韓国(KR)

㉑ 1391/1983

㉒ 代理人 弁理士 奥山尚男 外2名



明細書

1. 考案の名称

音響機器用レシーバーコードが埋設された  
バンド

2. 実用新案登録請求の範囲

1) 音響機器用ケースのないひも又は下衣用  
ないひも等のないひも型に構成されたバ  
ンド2の一側部に上・下端にそれぞれコネク  
ター4とジャック5が連結されたコード3を  
長方向に埋設するのであるが、コネクター4  
はバンド2の中間部表面に固定取付けてレシ  
ーバーに付いているコードを連結し得るよう  
にし、ジャック5がついているコード3の下  
端部は適当な長さに露出させて音響機器に連  
結し得るようにした音響機器用レシーバーコ  
ードが埋設されたバンド。

2) 第1項において、バンド2を既存のバッグ

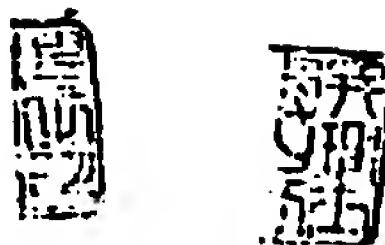


にないひも14等に取付けられるよう複数個の挿持片12を一側面に設けたバンド2で構成した音響機器用レシーバーコードが埋設されたバンド。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は小型ラジオやテープレコーダーのような携帯用音響機器のレシーバーコードを埋設したにないひも型バンドに関するもので、更に具体的に説明すると、直接にないひもで使用するか、又は既存のハンドバックにないひも等に取り付けて使用し得るよう形成されたバンドに適正な長さのコードを長方向に埋設し、該コードの一端にはコネクターを連結してレシーバーと連結し得るようにし、上記コードの他の一端にはジャックを連結して音響機器と連結し得るようにした音響機器用レシーバーコードが埋設されたにないひもバンドに関する。

最近、登山、釣り、又は散策の時、其他町を歩行する時はもちろん、大衆の集まる屋内外の



場所において音響機器を携帯、イヤホーンとかヘッドホーンのレシーバーを使用して放送を聴取したり、音楽を鑑賞する行為が広く行われている。

而して、このように音響機器を携帯する場合、普通音響機器を腰につけるかポケットの中に入れるかまたはハンドバッグ等に入れて携帯するのであるが、この場合、携えた音響機器とレシーバー間を連結するレシーバーコードが長く垂れ下つた状態で外部に露出するようになつていて、外観上見にくいけれどなく、引っ掛かつて行動にも不便、且つ不自然であり、また注意しないと他人によりコードが引っ掛かつてレシーバーが外れる心配がある。

本考案は、このような点を勘案して携帯用音響機器のレシーバーコードをにないひも型に構成して、簡単に着用できるようにしたもので、本考案の実施例を添付した図面によつて詳細に説明すれば次の通りである。

第1図は本考案のバンドを携帯用音響機器ケ



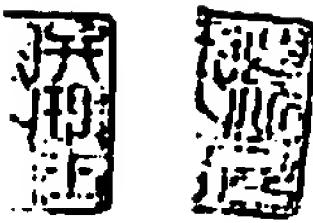
ースのにないひもに利用した実施例を示すもので、音響機器ケース1にないひもで取り付けるべきバンド2の一側半部に適当な長さのコード3を埋設してその上端はバンド2の中間部表面に取り付け固定されたコネクター4に連結し、下端はバンド2の下端外部に露出させてその先の部分に音響機器に連結するためのジャック5を連結したもので、これを使用するに際しては、音響機器を内蔵したケース1のバンド2を上衣の内部、または外部の肩にひつかけて音響機器を携帯し、レシーバー6についている短いコード7の先のコネクター8を上記バンド2のコネクター4に連結した後、レシーバー6を耳に着用して音響を聴取するようになるものである。

また、第2図は本考案バンドを下衣用にないひもで利用した例を示しているもので、両端にクリップ9を設置して下衣用にないひもとして使用することができるよう形成した一字形またはX字形のバンド2に上述した例におけると同じような方法でコネクター4とジャック5が



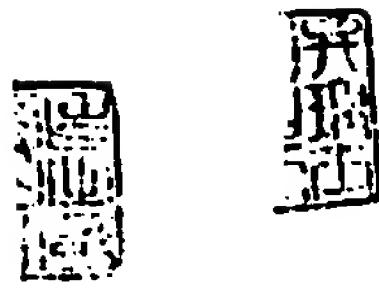
連結されたコード3を埋設してなるものにして、これを使用するにおいては、第6図(a)に図示したように音響機器10を腰に着け、バンド2を通常の下衣のないひもと同じ方法で肩にひつかけてレシーバーコード3の下端シャツク5を腰に着けた音響機器10に挿しこんで連結した後、レシーバー6のコード7についているコネクター8を上記バンド2のコネクター4に接続連結して使用する。尚、バンド2の下端部近くに第2図(a)に示したように小型コードケース11を設けて音響機器を使用しない時にはバンド2下端部に露出されているコード3の端部を上記コードケース11内に入れておくと簡便である。

以上の例は本考案バンドをないひも自体で利用した例を示したものであるが、第3図はハンドバッグ等のないひもに簡単に取り付け得るよう構成した例を示したものである。つまり、適当な長さのバンド2に前述した例におけると同じように、コード3を埋設してその上端に連結したコネクター4はバンド2上端表面に



固定し、コード 3 下端は露出させてジャック 5 を連結してバンド 2 の一側面には数個の挟持片 12 を一定間隔に設置してバンド 2' をハンドバッグ 13 のないひも 14 に挟持片 12 を利用して取り付け得るようとしたもので、これを使用する時には、第 6 図(b)に示したようにハンドバッグ 13 内に音響機器 10 を入れてないひも 14 にバンド 2' を取り付けた後、ないひも 14 を肩にひつかけてレシーバー 6 を着用し、そのレシーバー 6 のコード 7 についているコネクター 8 をバンド 2' のコネクター 4 に連結して音響を聴取することができる。

上述のように本考案は、音響機器ケースのないひもとかカバンのないひも、または下衣用のないひもを利用して携帯用音響機器のレシーバーコードをないひも式に着用し得るようとしたものであるから、音響機器を携帯使用の際、コードが外部に長く露出されないで内部に隠蔽されるので見にくくないばかりでなく、引っ掛かることもなく行動が自由であり、また



他人によつてレシーバーが外れる心配もなく、心易く音響を聴取することができて、町を歩く時でも或いは屋内外の大衆が居る場所でも、他人の視線を意識することなく音響機器を携帯使用する効果があるものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案バンドを携帯用音響機器ケースのないひもで利用した例を示す斜視図。

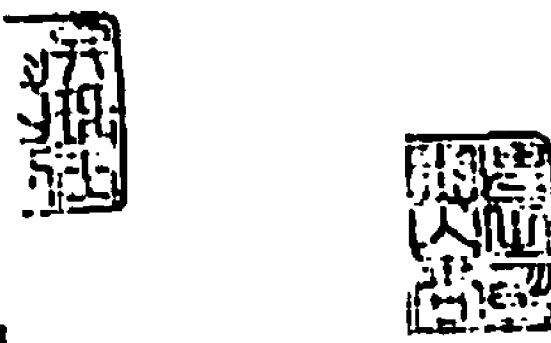
第2図は本考案バンドを下衣用にないひもで利用した例を示す斜視図にして、

- (a) は一字形にないひもの例を示すもの。
- (b) はX字形にないひもの例を示したものである。

第3図は本考案を携帯用バッグのないひもに取り付けて使用し得るよう構成した例を示す斜視図。

第4図は、第1，2図のA-A線拡大断面図。

第5図は、第3図のバンドをにないひもに取



り付けた状態の拡大断面図。

第 6 図は、本考案の使用状態図にして、

(a) は第 2 図(a)に示したバンドの使用状態図。

(b) は第 3 図に示したバンドの使用状態図。

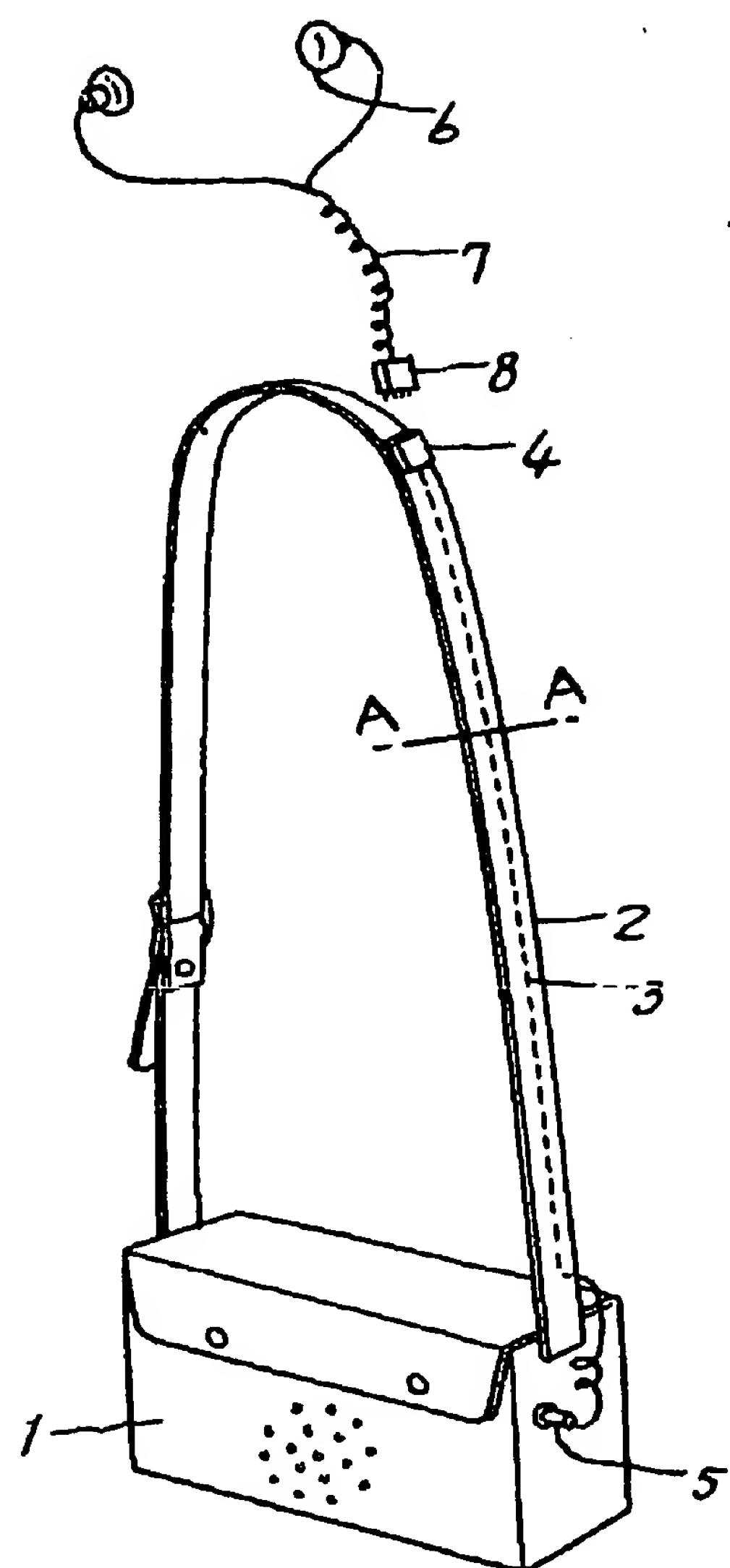
図面の主要部分についての符号の説明

1 ..... 音響機器ケース、2, 2' ..... バンド、  
3, 7 ..... コード、 4, 8 ..... コネクター、  
5 ..... ジャック、 6 ..... レシーバー、  
11 ..... コードケース、 12 ..... 挟持片。

58-113

件 3

第 1 圖

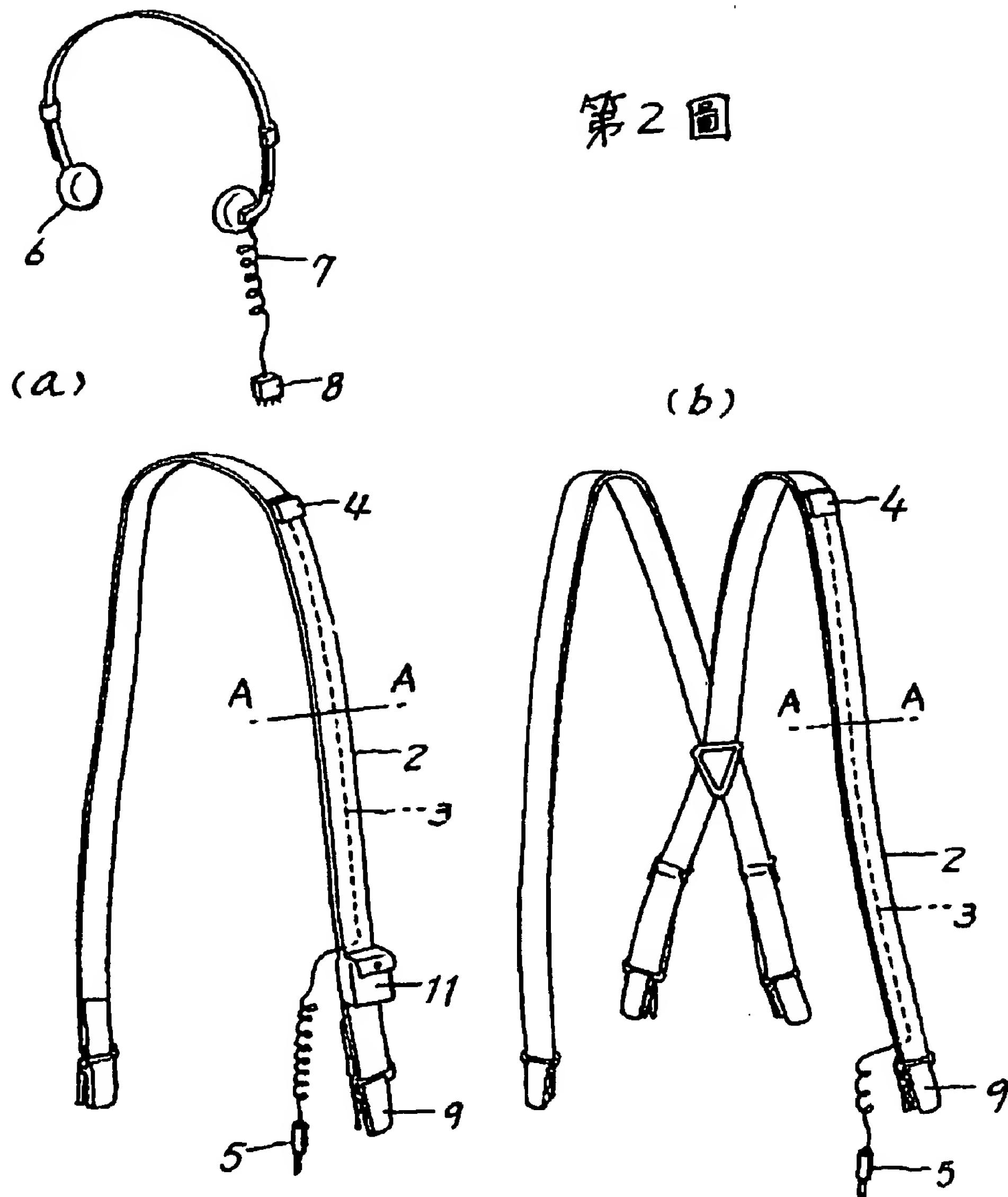


661

実開 59-127276

55-113

第2圖

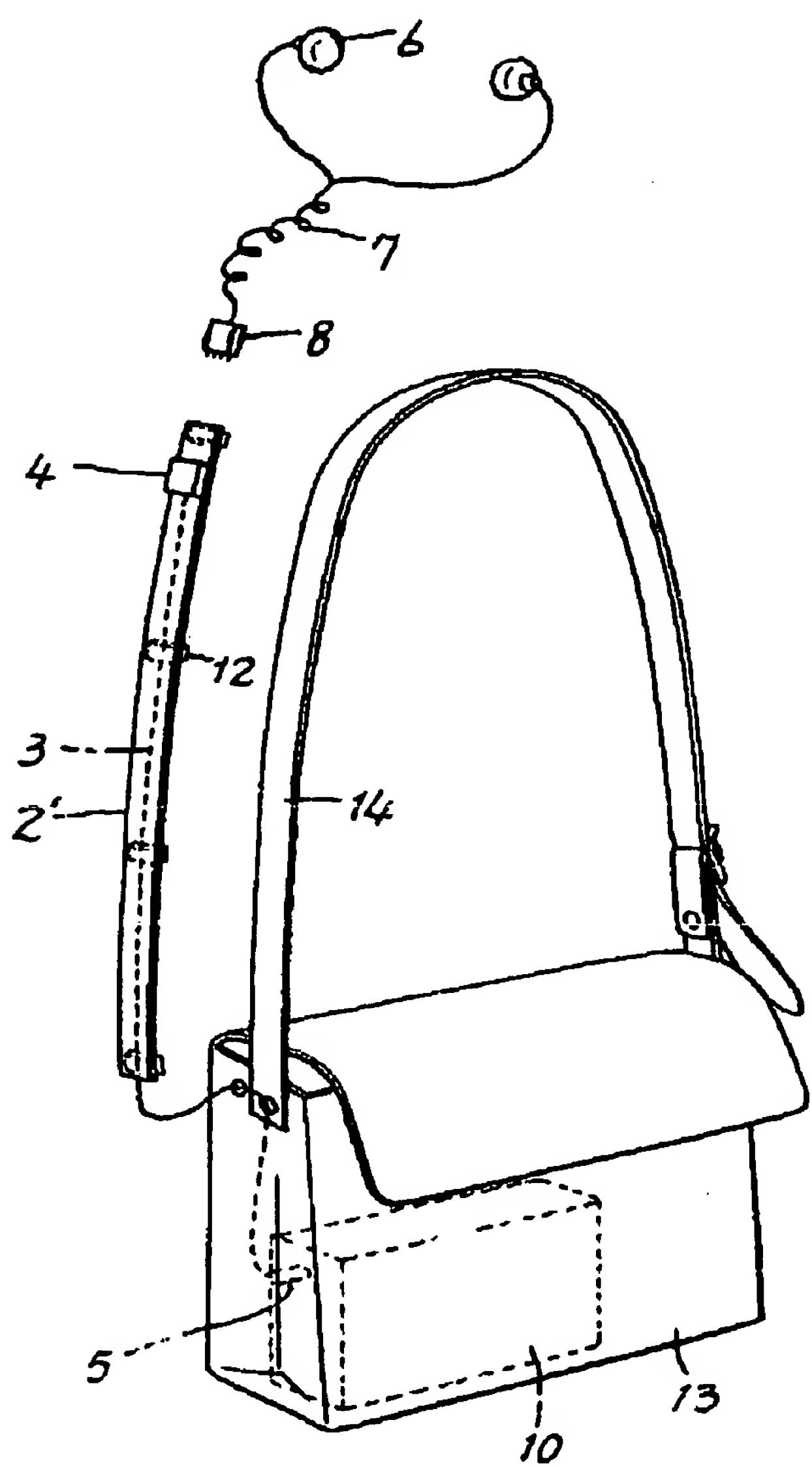


1662

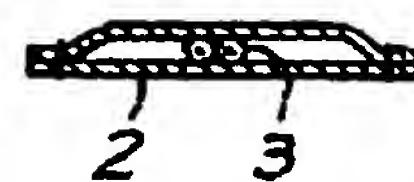
実用 59-127276

58-113

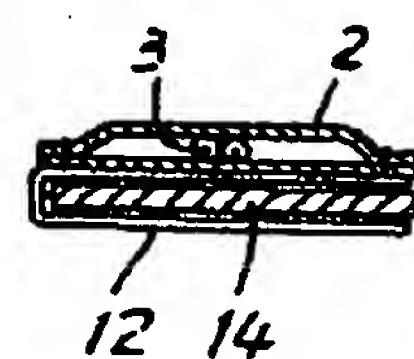
第3圖



第4圖



第5圖

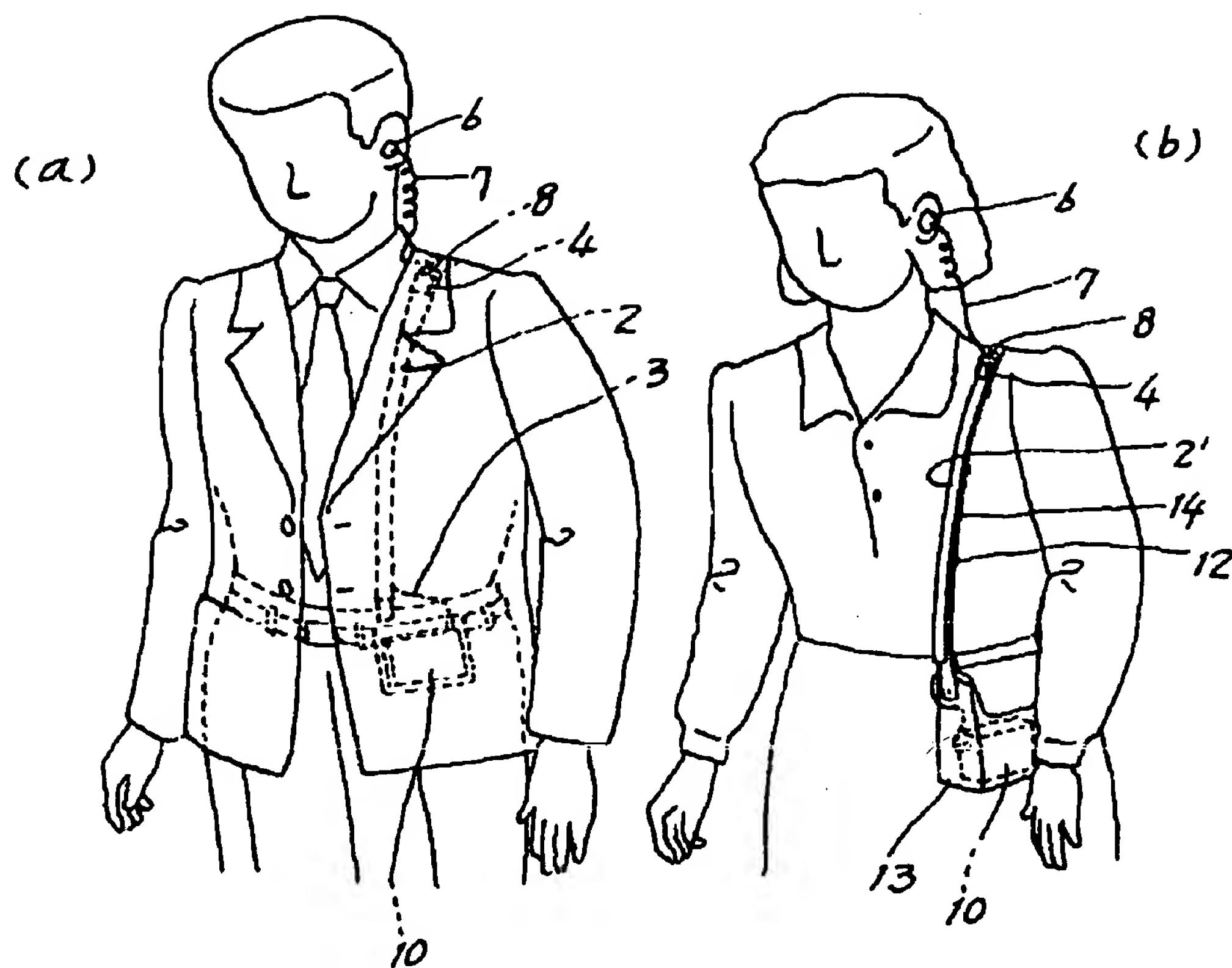


113

實開 59-127276

58-113

第6圖



HGA

実開 59-127276